

# “鮮度一番！”

No.221

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

## CONTENTS

- 1～2 / ワーママのジレンマ Vol. 4
- 2 / 『堤中納言物語』 第4話
- 3～5 / 運営委員会で話し合われたこと
- 5 / お知らせ
- 6 / 会員募集 & 投稿募集のご案内 編集後記

## Vol. 4

## ワーママのジレンマ

石本史子

私はマドンナ・ワークスという一般社団法人を経営しています。そのミッションは「私が『わたし』でいられることのお手伝い」です。出産をした女性は、「ママ」というラベルが貼られ、個人として扱われることが激減する、もしくはゼロになります。離職すると名前では呼ばれることもなく、経済力もなくなり、得も言われぬ閉塞感を味わいます。「昔は皆そうだったのよ」という先輩ママもいますが、今は今で、女性がどんどん社会進出して、格差が大きいの、昔とはまた違った重圧がママたちにのしかかってくる。他人との比較だけでなく、若い時、自由に働けた、動けた自分と比べる「個人内ギャップ」にも苦しむのです。私たちはそれをテレワークなどを通して解決していこうと取り組んでいます。

方や今回取材させていただいた「ファザーリング・ジャパン・新潟」の代表をされている大堀正幸さんは、新発田市にある会社の社長さんで、「父親支援」という視点から、働き方にも取り組まれていらっしゃいます。

それでは、どのような活動を通して父親支援をしていられるのかを紐解いてみましょう。

そもそも「父親支援」とは何なのか？

なかなか一言ではまとまらないのですが、あえて私の理解したところで語弊を恐れずに書かせていただくのであれば「家事育児に男性が主体的に関わるきっかけ、ノウハウ、伝えること」です。

「なあんだ、そんなこと家事育児に主体的に関わるなんて、私たち女性は当たり前に行っていることじゃない！何言ってるの！」という声が聞こえてきます。しかし、そういう女性の「私たちには当たり前！」と思う気持ちが、実は男性が家事育児に関わりづらさを感じてしまう一つの理由になってしまったりしたら？

パパに対して『イクメン』という最大値を求めることがありますか？でも、自分の両親もそうだったように、「家事育児をする母親の姿」を見て育っているので、「家事育児をやるつもりで生きてきていない男性」の気持ちとその最大値とのギャップが、過去より現在は大きい。だから女性もそれを最初から求めない思いやりが必要になってきます。

しかし、相手をお願いするだけではどこかで破綻します。だから家事育児をするためのファーストステップを築いてあげる。それが「パパスクール」という活動です。これが父親支援の第一段階です。「家事の仕方」「子どもとの遊び方」などを教えるところからスタート。色んなカテゴリーから取り組んで、なるべく垣根の低く参加しやすい講座にしているそうです。

第2ステップはもう少し踏み込んだところ。自分の「家事参画」を見直したり、ママの慌ただしさ、産後の気持ちの不安定さなどを知るといった、ちょっと難しい、だけど面白い講座などを開催しています。

「家事やっていますよ」という男性に何をしているか聞くと「ゴミ捨て」です。ただもう少しよく話を聞くと、「ママが家じゅうから集めて纏めてくれたゴミを収集所に出す」だけです。本当は家中のごみを一つに纏めて、またゴミ袋をセッティングする」ことが「ゴミ捨て」ですが「ゴミを捨てれば良い」と勘違いしている男性が多いのです。そして女性はゴミ捨ての用意をしつつ、あれもこれも考えながら目の前の作業も行方。いわゆるマルチタスクを日々こなしている。その上、そのマルチタスクには必ず期限が短時間でやってきます(例：送り迎え、料理、洗濯、寝かしつけ、明日の準備…)。反対に、男性は一点集中の人が多。それは男女それぞれにある特性の一つだろうけれど、日本人男性の悪いところは、「時間は無限にある」と考えて切迫感がない。そんなところからママもイラっとしてしまうのかもしれない。

でも今はママも一緒になって稼がないとやっていけない世代。だったら、ママにも働いてもらえる環境を作ることが父親自身にとってもリスクヘッジと考えて、女性の気持ちを知り、家事育児を学んでいった方がいいのではないかと大堀さんはおっしゃっていました。

また長くなってまいりましたので、次回へ続きます。「育児休暇を男性が取る意義」について伺いました。

## 『堤中納言物語』を読む (第4話) 「虫めづる姫君」

三条地名研究会 杉野真司

『堤中納言物語』を知らなくても「虫めづる姫君」をご存知の方は多いかもしれません。虫が大好きで、虫を集めて眺めて暮らしているお姫様。このちょっと奇妙なお姫様をめぐるドタバタを描いた作品です。「虫めづる姫君」は、アニメ映画で知られる「風の谷のナウシカ」のモデルだとも言われます。

虫の大好きなお姫様は、女の子らしからぬ、男の子のような格好としぐさ。お側近くに仕えるのも男の子たち。今どきのファッションにも興味がなく、正論ばかりを述べて両親をやり込めます。理系女子・リケジョのはしりとでも言えるでしょうか。

お話の中で、貴公子予備軍の若者達が、このお姫様の様子をのぞきに来る場面があります。隣の学校で噂の女の子を見に来た男子高校生といった印象を受ける場面です。よくある少女漫画やライトノベルの設定が平安時代からなされていたと思うと驚きです。

国文学の専門家の先生方(だいたい男性)によると、主人公の性格が病的な要因によるとか、作品世界が末法の世の世紀末的退廃趣味に彩られているなどと論じられることがあります。ちょっと風変わりな理屈っぽい女の子をどう評価して良いか戸惑っているのは男の学者先生達も同じかなと思えてきます。一般の読者は、主人公に病的な症状やデカダンスの空気などではなく、素直にシンパシーを感じ取っているからこそ人気が高いのではないかなと思えます。幻想文学作家の澁澤龍彦(しぶさわ たつひこ)は、『不思議の国のアリス』の主人公と比較したエッセイを書いています。どちらも思春期のこまっしゃくれた女の子の屈折を描いた作品と論じています。皆さんはどうお読みになるでしょうか。(H29.8.31)

# 運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成29年9月6日(水)(AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター(桜木町)

10月の運営委員会は、4日(水曜日)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

1.

## NWEC「男女共同参画推進フォーラム」(8/26)参加報告

近年、両膝の痛みが増強して、NWEC参加はこれが最後かな?とっていたが、今年も埼玉県嵐山の国立女性教育会館で開催されたフォーラムに参加することができた。嬉しいですね。

H29年8月26日(土)午前6時、市民参加者7名と市担当職員を乗せて、金物三条をPRする真っ赤なマイクロバスで出発。

午前のワークショップは、NPO法人SEAN(シーン)主催の「若者層のポルノ(AV)被害のいま~予防教育と支援~」の実態と予防協育に惹かれて参加した。

アイドルに憧れる女の子(女性)が多い現在、「君、可愛いね!モデルにならない?」とスカウトに声をかけられ、面接を受けたら、しつこく勧められ契約してしまう。実際は過激な性的な撮影(AVはすべて本番!3本撮りが常識)をさせられた。⇒同意したのだから、自分で納得しようとしてしまう女性達(孤独や経済苦に陥り、自殺願望・精神障害など)。まずは、誰か(支援団体・弁護士)に相談してほしいとの話でした。

三条ではあり得ないとは思いますが、驚きの現実でした。

午後の40周年記念シンポジウムは、「自分が変わる、社会を変える~明日に向けてのロードマップ」で、パネリストは、関西大学文学部教授 多賀太(男性学)と旭化成株式会社人事部付シニアマネージャー田中恭代さん。

男性も女性も仕事と家庭生活の両立に悩む時代、生きづらい社会でもある。あるアンケートでは、男女とも結婚相手に望む条件として、第1位に「家事能力」とは、時代は変わったものです。

とても印象に残った言葉は、金子みすゞの詩を引用され、「みんなちがって、みんないい」「みんな違うことは『宝』」「まるごと自分、自分にしかできない・自分しかわからない・自分だから感じる事、自分自身の可能性を信じる、みんなを信じる事」との最後のまとめでした。

高齢者になった私への優しく嬉しい言葉で、もう少し頑張れそうです?!

ワークショップ(2) 8月26日

女性とメディア・ICT-エンパワーメントのための活用術-

運営団体 JAWW(日本女性監視機構)

安室久恵

JAWWは、国連女性の地位委員会(CSW)に出席し、報告会や情報提供をしているという。最近のテーマのひとつが「メディア、コミュニケーション技術(ICT)が女性をエンパワーメントする」。私たちにとっても課題であると思いこのワークショップに参加した。50名ほどの参加者で、年齢層も様々。ICT(Information and Communication Technology)はITとほぼ同義だが、国際的にはICTが定着しているという。それは初めて知った。まず、情報収集の手

段として、インターネット利用の割合が増えてきていること。ソーシャル・メディア（SNS やブログ、口コミ情報サイトなど、多数の人々や組織が参加できる双方向コミュニケーション）が広く利用され、特に若い世代はコミュニケーションのツールが多いとの解説。そして、情報技術、アクセス格差をなくし、世代を超えてつながっていく手段として ICT を活用した事例が紹介された。

熊本地震の際、フェイスブックやツイッターで連動して、有効な支援ができたという事例、短期間でネットワークを作り、イベントが成功した事例、あるいはラジオ番組とつながりながらリアルタイムに情報提供することができるなど。ハブ（起点となる人）がいるかがポイントであり、基本の関係を築くには、やはり「face to face」が始まりだと締めくくられた。参加者からコーディネーターに「スマホにどれほどの時間かわかるか」との質問があったが、「日常的にそばにあり、マルチタスクの必需品である」というようなことだった。

スマホは便利だが、私はまだ使いこなせていない。可能性の大きいツールであるが、エンパワーメントのツールとして機能させるのはまだ無理だろう。できればパソコンやスマホは必要最低限の利用で、時間を奪われたくないと思っているのだから。

## 2.

### 各種審議会等について

#### 平成 29 年度第 2 回三条市介護保険運営協議会 報告

安室久恵

8月29日(火)、平成29年度の第2回三条市介護保険運営協議会が市役所で開かれた。  
議題

- (1) 高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画の基本目標等について
- (2) 報告事項

三条市高齢者実態調査の結果について

平成30年度を始期とする高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画の策定にあたり、三条市域の「高齢者実態調査」を実施した。その結果の報告を受け、第7期は、第6期で構築してきた「地域包括ケアシステム」の理念をさらに推進していく。平成33年（2021年）高齢者人口のピーク、平成37年（2025年）団塊世代が75歳、平成42年（2030年）後期高齢者人口のピークとなる。生涯にわたり住み慣れた地域で暮らし続ける環境づくりを目指す。今後、介護保険制度自体の持続可能性を確保するためにも検討課題は多い。

## 3.

### 燕三条エフエム放送（ラヂオは〜と 76.8MHz）ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00~11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

2017年9月のテーマ 「又エック開館40周年によせて」

- ①9月7日 学びの喜びを知る
- ② 14日 なぜ、女も男も生きにくい？
- ③ 21日 シニア世代の行く末
- ④ 28日 又エックでの学びを今に

メンバー：西方久子、安室久恵、田辺とも子

又エックとは国立女性教育会館の愛称で埼玉県嵐山町にあります。学習メニューは多岐ありますが、男女共同参画社会推進のため毎年8月に開催される男女共同参画推進フォーラムには当会メンバーが今年も参加しました。三条市でも日帰りではありますが、継続してバスが運行されています。この三条市の取り組みは県内でも注目されており、気軽に参加できて市民として嬉しいかぎりです。又エックが開館40周年ということで、過去の学びや今年の印象などをメンバーが語りました。女性問題に関して本当の意味での進展はあったのか、これからの課題は何か、今年度最終月の放送をどうぞお聴きください。来年度4月にまたお目にかかります。ありがとうございました。(田辺)

## 4. 研修会及び、研修費の有効活用について

今年の総会で研修費を有効に活用してほしいとのご意見をいただき、みんなで話し合いました。

私たちは、子育てを終え、自分の自由な時間を満喫していたのですが、気がつくと最近は、「孫育て世代」となっていました。楽な暮らしに慣れた体には、久々の孫育てが、ちょっぴりきつく、それと同時に、今と昔の子育ての常識の変化に戸惑うことも多くあります。

そこで、開業助産師の西方久子さんから、最近の子育ての常識と、祖母・祖父として、どう関わっていったらよいのか、そのさじ加減をお聴きしようということになりました。子育ての知識を得て、疲れ過ぎない孫育てになればよいなと思います。

日時は、12月か来年1月の土曜日、会場は、地場農産物を使用した和食のお店、旬彩酒房たかだ(三条市旭町1-7-21)です。

来月号で、日時をきちんとお知らせします。

### 【お知らせ】

#### 働く女性のための相手を受けとめて、心を開く相談・苦情対応力

##### 【カリキュラム】

- ・意見の対立とは
- ・問題分析の視点
- ・電話受付録音
- ・感情を鎮めるアプローチ
- ・苦情相談ロールプレイ

◆日 時：2017年10月21日(土曜日)10:00~17:00

◆会 場：新潟県女性センター 女性団体交流室  
(新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ2階)

◆講 師：鈴木有香さん  
(早稲田大学紛争交渉研究所招聘研究員、明治大学兼任講師など)

◆定 員：働いている女性20人(申込着順)

◆参加費：5,000円(当会員は、割引有ります)

◆一時保育：生後6ヶ月以上 保育協力費一人1日400円 10/7締切

◆申込・問合せ：(公)新潟県女性財団 (TEL025-285-6610)

## 三条女性会議では随時会員を募集しています

Q. 三条女性会議って、どんな団体？

A. 女性と男性があらゆる分野で、共に参画し、支え合う社会をつくることを目的に活動している市民活動団体です。

Q. どんな活動をしているの？

A. はい、次のような活動をしています。

- 燕三条エフエム放送で「ワイワイ女性広場」を担当(4月～9月)  
本放送 毎週木曜日 11:00～11:30 再放送 毎週水曜日 19:30～20:00
- 毎月会報「鮮度一番！」の発行やホームページによる広報活動
- その他、男女共同参画社会実現に向けた活動

Q. 誰でも入れるの？

A. はい。女性だけでなく男性の会員さんも活躍しています。

年会費：・一般会員 3千円 ・賛助会員 3千円 ・団体会員 1万円  
連絡先：野崎ミチコ TEL 32-3667 E-メール：[info@joseikaigi.net](mailto:info@joseikaigi.net)  
ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>

### ◆会報「鮮度一番！」への投稿を募集しています

「鮮度一番！」では、あなたの男女共同参画社会への気づきについての文章を募集しています。一人ひとりが体験した生活での気づきをみんなで共有できたらと思うのです。本名やイニシャルでの掲載、文字数等柔軟に対応いたします。

どうぞあなたの声をお寄せください。

《送り先》

- 三条女性会議 Eメール：[info@joseikaigi.net](mailto:info@joseikaigi.net)
- FAX 0256-32-3679
- 〒955-0044三条市田島2-12-12

#### 編集後記：

台風の前に刈り入れを終わらせなければの一心で、台風を背中を押されて我が家の稲刈りが終わりました。何はともあれバンザイ！です。その万歳の余韻に浸りながら仕上げた鮮度一番221号、どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>